

3

日本の敗戦と 開拓団の 結末

敗戦から引き揚げまで (わが一家の足跡)



昭和20年(1945)8月15日(敗戦)

- ・一彦 在満国民学校3年(8歳)
- ・父 7月13日赤紙(根こそぎ動員5万人) 18~45歳
- ・8月17日午後 伝令「敗戦/襲撃」
- ・18日午後 開拓団本部へ集合
- ・18日 夕刻から 逃避行開始

1、逃避行の開始 500人

- 8月18日 夕刻 -

・目的地 明城(軍隊)
・(女・子ども・お年寄り)500人



深夜の豪雨のなかで

・松川団長
「東京開拓団の華と散ろう!」



背中
の赤ん坊
は死んで
いた
路傍に
埋めら
れた



2、連夜の襲撃と逃避

3、集団自決(軍と国からの棄民)・幹部

4、父 捕虜 シベリヤ連行/労役

5、吉林市内 映画館の生活

(9月末 春子の死)と埋葬

12月28日 征夫の死 32日

6、昭和20年冬の生活

(母のたくましさ 一彦大福餅売り)

7、父 シベリアからの脱走敢行

”国と国は敵対するが
人と人は友人になれる”

8、S21 8月17日 帰国開始

(材木運搬無蓋列車 停車 雨 生ジガイモ)

9、胡蘆島(LST/戦車揚陸艦の船底 600人)

佐世保入港 検便コレラ 港外へ隔離1か月

10、10月2日信越線塚山駅着 輝<稲田

(昭和15年12月~昭和21年10月 6年間)